NEWS Kio FD+

2010年 9月号

発行日　2010年9月10日

編集部　高等教育支援センター

特集：2010 年度前期「研究授業」「授業研究会」報告

各学科から１科目を公開して授業改善を議論

2010 年度前期の「研究授業」および「授業研究会」について報告いたします。

本学では、公開授業を実施しており、他の先生方の授業を自由に参観することができます。しかし、いつでも自由にと言われるとなかなか活用されていないのが実態です。

その点、各学部、学科ごとに担当者および該当授業を決めて実施している「研究授業」は、学科内のあるいは学科を越えた教員の参加が見られ、本学ＦＤ活動の一環として有意義に展開しているといえます。全「研究授業」に参加することはなかなか困難かと思います。本報告を読んでいただき、各自の授業展開のヒントとしていただければと存じます。

2010 年度前期に実施した「研究授業」は以下のとおりです。

- 健康科学部
  - ▲ 理学療法学科　冷水　誠　先生
    「生活技術学」　6 月　4 日（金）3 限
  - ▲ 看護医療学科　江南　宣子　先生
    「母乳育児と看護」　6 月 21 日（月）4 限
  - ▲ 健康栄養学科　浅野　恭代　先生
    「調理学実習Ⅰ」　6 月 18 日（金）4・5 限
  - ▲ 人間環境デザイン学科　藤井　豊史　先生
    「建築の工法・生産」6 月 15 日（火）5 限
- 教育学部
  - ▲現代教育学科　冨島　雅子　先生
    「日本語と表現」　6 月 16 日（水）4 限

＜CONTENTS＞

2010 年度「研究授業」「授業研究会」報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
研究授業：『生活技術学』・・2
研究授業：『母乳育児と看護』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
研究授業：『調理実習』・・・3
研究授業：『建築の工法・生産』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
研究授業：『日本語と表現』・・5

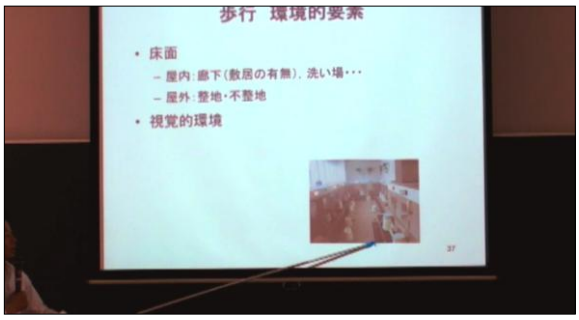
研究授業レポート

レポート１

「生活技術学」

理学療法学科　　冷水　誠

この科目では日常生活に必要な動作（活動）として基本的動作およびセルフケア動作の構成と必要とする身体機能およびその評価方法について講義している。つまり，「生活技術学」の授業内容は動作能力の改善を役割とする理学療法士養成課程において必要不可欠である。そのため，できる限り学生の理解が得られるよ



う，必ず前回の授業内容を簡単に復習するようにしている。そうすることによって，記憶した内容をもう一度再認することができ学習に繋がるのではないかと期待している。

授業の具体的内容としては，各動作の構成・必要とされる身体機能および環境面の配慮などを提示し，評価の具体的項目を明確にしてもらう。さらに理解を進めるためにできる限り実際の症例の映像を観察させることを心がけている。また，授業内容は回数をまたがないよう配慮し，授業開始時に「この回にて理解してほしいこと」を提示し，授業最後に「理解してほしいことのまとめ」を提示するようにし，授業１回毎に伝える内容を明確にするようにしている。

今回の授業では理学療法士にとって必要不可欠な能力である動作観察・分析能力として，「床からの立ち上がり動作・歩行動作・階段昇降動作」における観察・分析の進め方について講義した。床からの立ち上がり動作については，動作方法にバリエーションがあることを説明し，臨床上よく見受けられる方法とその評価ポイントについて提示し，実際の症例の映像から評価および問題点に関して説明した。歩行動作については，2 回生時に学習した必要機能について復習し，近年のトピックスを取り上げて紹介した。階段昇降動作については基本的内容を説明した。

授業全体を通じて学生の集中力が持続できるように，理解してほしい内容をできるだけ 30〜40 分間程度に分け，話の切り替わり時に映像を用いることや関連した臨床現場などの話をするよう心がけている。また，一方的に説明するのではなく，問いかけを多くすることで学生参加型の授業となるよう配慮しているが，十分なものとはなっておらず授業終了後にいつも反省している。今後も努力し続けるのみと感じている。

レポート２

「母乳育児と看護」

看護医療学科　　江南　宣子

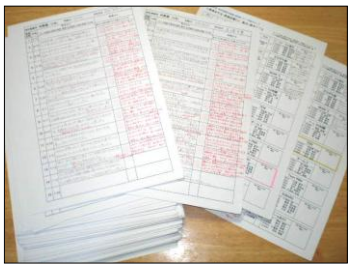
＜母性看護学対象論という授業に関心をもつために＞

いかに男子大学生、女子大学生が「母性」という言葉の一つの扉から、自分のこと、家族のこと、周りの友達のこと、そして、看護の対象へと視点が広がり、自らが選択した専門職へのあこがれや漠然としたイメージから「実践したい、自分も出来るようになりたい」と思える入り口を見付けてほしいと考えている。そのためには、同じ目標を持つ仲間と主体的な学びを協働したり、競いあったり、それを認めたり、認められることができる場を示すことが必要ではないかと考えている。これまで、学生たちが母性に関連するテーマを

選び、各グループ編成、発表順番、進行を学生中心で進めていくプレゼン方法を授業に取り入れてきた。今年度からは新たな試みとして「シャトルカード」の導入を試みた。これは昨年の FD 講演で紹介され、教員と学生との１対１関係から主体的な学びを誘発して効果をねらった方法である。

＜学生の調査発表とシャトルカード導入の効果＞

学生によるテーマの調査発表は毎回１グループ（学生 5～6 名）約 15 分間である。事前学習ともなるこの方法は学生自身の「伝える」「聞く」態度を養うことをねらいとしている。学生は緊張しながらも自分たちの調査したことを何とか伝えたい、理解して欲しいと思うことで、他の学生グループの発表に対しても真面目になるため、回を増すごとに発表態度、発表内容の展開、資料の充実、学生の聞くマナーなどの向上が見られている。また、発表において「良かった点」をシャトルカードの裏面に全員からのコメントが入るので、調査中の苦労や発表した満足感を得ることができている。



シャトルカード導入においては、回を増すごとに教員も学生もそのやりとりが楽しく、待ち遠しくなってきている。授業内容に対するコメントが最も多いが、自分自身の反省や、学業を頑張っていきたい気持ちや、部活のこと、悩みなど、小さな枠の中の文字が訴えてくる感じである。それを受け止め更に狭い教員欄にコメントを返している。90 名以上の学生ひとりひとりにコメントを書くことは確かに至難の業であることを実感しているが、それよりも学生の授業への関心も確かな手応えとして感じている。母性看護の対象論であるが教員にとっては学生対象論を学んでいるようである。全ての科目に適した方法とは思わない。初めての学年の対象論という科目だからこそ効果的なのではないかと現段階では考えている。今後も試行錯誤しながら取り組みたいと思っている。

レポート３

「調理学実習」

健康栄養学科　　浅野　恭代

調理学実習の目的は、調理学で学ぶ理論の実践の場であるということと、楽しく調理できるようになることである。そして様々な人の食事を考え美味しく食べていただくことが栄養士の大切な仕事の一つである。そのためにはまず楽しく調理ができることが必須条件であると考えている。

そこで、包丁の技術を習得することで、調理することが楽しくなってほしいと考え、最初の時間に包丁技術のテストをしている。きゅうりを 30 秒間で何枚切れるか。りんごの皮むきが何分でできて、むいた皮が何 cm つながっているかといったテストである。前期と後期の終りにも同じテストを実施し、どれだけ向上したかをみる。2 回目のテストでは毎日きゅうりを食べたという学生もいるくらい、学生も真剣に取り組んでいる。1 回生の終わりには皆包丁を持つことを怖がらす、とても細かく切れるように上達している。

今年の１回生には、全く包丁でリンゴをむいたことがなくて、途中でもうできないと何度か包丁を投げ出した学生もいた。これから調理の時間はひょっとしたら洗い物専門になるのではないかと心配したが、その学生が２か月ほどで桂むきを上手にしているのを見てびっくりした。多分家で練習をしたのだと思う。自信に満ちた顔が嬉しかった。

また実習は、グループで 4～5 品作るため分担して作っている班が多い。作る料理を分担する班もあるが、調味料を量るのが専門、切るのが専門という班もある。誰かに頼って何となく作れたという感覚が多いようである。ひとりで作るという経験からもっと自信を持ってほしいと考え、今年から一人で１品を仕上げるという課題を出した。しっかり説明を聞いているか、説明を理解して作っているかをみるために、調理中は班の人としゃべらない、班の人も決して助けないことを約束して実施した。はじめは不安そうであったが、前もって家で作って予習してくる学生もおり、作り終えた後の感想には

自信がついたというものが多かった。

今後もさらに一人で作れる料理が増えるように、楽しく自信を持って調理できるように、調理する機会を増やすきっかけ作りを大切にしていきたい。

「感想」

・ひとりで１つの料理を作ってみて、手際とか手順とかいろいろ大変だったけど料理が楽しいって思えた。

・ムニエルはバターを焦がしてしまって、きれいなピンク色に仕上げることができなかったことが残念で悔しかった。手際よく料理ができるようになりたい。

・ひとりで作るのは大変だったが、おいしいと言われると嬉しかった。

・一人を作った子がとてもてきぱきと動いていた。次は自分の番なので、家で作ってみたけどほうれん草のゆで方が分からなかったので、そこに気をつけて先週の子を見習って頑張ろう。

レポート４

「建築の工法・生産」

人間環境デザイン学科　　藤井　豊史

本授業は、建築の施工やその品質管理の方法について概説するもので、建築士試験科目の一つにもなっています。「施工」は他の科目、特に建築構造や建築環境工学などに比べると「暗記物」の要素が強く、建築士試験対策では無条件に覚えることが一般的なようですが、実際の現場で応用可能な能力となるためには「何故そうしなければならないのか」を理解しておくことが重要です。従って授業では、分野全体を漏れなく説明することではなく、主な項目に絞って事の本質を説明することに主眼を置いています。限られた授業回数で建築施工の全てを理解させることなど到底不可能であり、いざ問題に当たったときに解決方法を考えられる能力を身につけることこそ重要だと考えるからです。

今回、研究授業にあたった日は、鉄骨の接合方法がテーマでした。鉄骨の接合は、伝達可能な力の種類からピン接合と剛接合、接合の工法からボルト・リベット・溶接接合に分類されますが、それぞれの工法について、応力伝達のメカニズム、具体的な施工方法、検査の手法について説明を行ったわけです。

ところで私は、「出席」を一切取りません。理由は、①.「雑談をしに来る」学生や「寝に来る」学生は出席しなくなり授業環境が良くなる　②. もし、授業を聞かなくても充分な理解がある学生が居るなら、必ずしも出席を強要する必要はない　③. そもそも大学とは「強制的に」勉強させる場所なのだろうかとの思い、など幾つかあります。しかし何より、出席を取らないことによって「授業水準」の設定が可能になる、ということが最大の理由です。どのレベルの学生をターゲットに授業を行うかは永遠のテーマで、「トップレベルの解る者だけが解ればよい」との立場から「全員に理解させる」に至るまで各種の考え方がありますが、私は、多少時間を要しても理解しようとしている者には「全員」解らせることを目標にしています。そのためには教室内に「理解しようとしている者」だけを集める必要があるわけです。ただ、研究授業研究会でもご質問を頂きましたが、この考え方は当然、「試験で成績の悪い者には単位を与えない」ことが前提となっています。しかしながら、本科目は建築士試験受験資格獲得の必須単位でありかつ４回生配当科目であるため、多少成績不良であっても温情的に単位を与えざるを得ないのが実情で、このことに関しては正直矛盾を感じています。あまりにも多数の不合格者を出さずに、しかしながら学生には、「勉強しなければ合格は不可能だ」と如何に思わせるか、がこれからの課題だと考えています。

レポート５

「日本語と表現」

現代教育学科　　冨島　雅子

「日本語と表現」では、表現に関する基礎的な技能を積み上げ、論理的な文章（１０００字から２０００字程度の意見文やレポート）の作成に必要な知識と技能の習得を目標としている。

そこで、「表現するために必要な力」をつけるために、本科目の内容を「読むこと」「書きなれること」「書き方を学ぶこと」から構成した。

最後に、ポートフォリオを作る。授業の中で自分が取り組んだことやその結果（成果）を綴って「１冊の本」を作る。そのことによって、「成長した自分」や「自分のよさ」に気づくようにさせる。また、完成したポートフォリオを読み合うことで友だちの頑張りやよさにも気付くことができる。

また、授業の始め５分で漢字等の復習をしている。他には、レポートや論文の書き方を学ぶための図書を読むことも課題とした。

授業では、学生が読書についての興味・関心をもち、１冊でも多くの本を読むことを願って「読むこと」から始めた。

ここでは、「本のポップ」や「本の名刺」を作らせた。その後に学生同士の交流の場を設定した。その交流活動から「友だちに読んでもらいたい本のリスト」や「自分が読んでみたい本のリスト」の作成へと活動を発展させた。この取り組みがきっかけとなり、読む機会と読みたいと思う本との出会いがあれば活字離れが言われている昨今の学生も読書をするということがわかった。「本のリスト」のコメント欄からもそのことがうかがえた。

次に「書きなれること」では、特に楽しみながら書くことに取り組めるような授業になるように題材や指導法を工夫した。研究授業はこの中の授業である。

本授業では、物の説明をする文章を書かせた。相手意識をもつこと・簡潔・明快な文章が書けることをねらいとし、展開は次のようにした。

１．説明する題材を決める。（グループで同じ題材に取り組む。）
２．説明するものの特徴をメモする。
３．説明の観点を整理する。（構想・構成メモ）
４．説明する文章を書く。
５．グループ内で書かれた文章を読み比べ、「グループの決定版」を作る。
６．「グループの決定版」を発表する。

本授業では、グループ活動を取り入れた。グループ活動は個人での活動の質を高めることができる。しかしグループ活動をすることによって個人での活動の質を高められるかどうかは、個人での活動が確実にできているかどうかが前提となる。展開の２・３・４を個人で取り組ませたのは、そのためである。

本授業終了時に学生に尋ねたところほぼ全員が「楽しかった」と答えていた。個人での活動とグループ活動がうまく関連し、学生一人一人が成就感を感じることができたからであろう。

最後に、「書き方を学ぶ」では、意見文とレポートを書いた。意見文やレポートを書く授業をしていてわかったことは、『考えること』に苦手意識をもつ学生が多いということである。どの学生も資料を集めたり、それらを読んだりすることには熱心に取り組む。しかし、集めた資料から問題を見つけたり、主張を支える根拠とするためにどのような資料を選べばよいかを考えたりすることは苦手な学生が多い。このような学習の経験が大学入学までに少ないからではないだろうか。だから、学生の一人一人と個別にやりとりをすると、そこで初めて自分が何を主張したいのか、自分の主題は何かがわかる学生が多い。可能な限り個別指導を入れていきたい。他に、要点をまとめたり見出しをつけたりすること、段落意識、段落と段落の関係を考えたりすることにも課題がある。

「表現するために必要な力」をつけるための近道はない。今後も「読むこと」「書きなれること」「書き方を学ぶこと」を関連させた楽しい授業を展開していきたい。

FD・SD 研修会に積極的なご参加を！

全体テーマ：「畿央大学生の身につけさせたい教養とは」

日時：9月16日（木）

11:00～11:50　全体会
問題提起：健康科学部長　金子章道先生、教育学部長　白石　裕先生
12:30～14:30　グループ討論
14:40～16:00　グループ発表

会場：KB04 講義室

ご利用ください!!

情報センターの一角に教材編集ラボがあります。本学で最高レベルのスペックのパソコンを設置し、画像、動画編集をはじめ、教材編集に必要なソフトウェアを搭載しています。ぜひご利用ください。ご利用いただくときは、内線にて、情報センターに利用可能かどうかをご確認ください。

スペック・・・

HP 製　　型番：HPE-190jp
OS：Windows7　64bit
CPU：　i7 920 2.66GHz
メモリ：　DDR3 12GB
HDD：2TB
グラフィック：GeForce GT230 1.5GB
BlueRay+DVD 書込ドライブ

主なソフトウェア・・・

マイクロソフトオフィスとアドビマスターコレクション CS4 です。マスターコレクション CS4 に入っている主なアプリは以下の内容です。

Adobe Acrobat 9 Pro　PDF ファイルの作成・編集
Dreamweaver CS4　高機能なホームページ作成
Adobe Encore CS4　DVD の製作
Adobe Fireworks CS4　Web 向けの画像作成・出力
Adobe Flash CS4 Professional　Web コンテンツ、動画を作成
Adobe Illustrator CS4　デザインやグラフィックの作成
Adobe InDesign CS4　DTP ソフトウェア
Adobe Photoshop CS4　写真や画像などの編集
Adobe Premiere Pro CS4　動画の編集、出力